

例会報告：2013年2月12日（曇り）第1785回年通常例会

❖ ビジター

川田 隆志様（小田原中RC）

❖ 会員誕生日

村瀬 雅實さん（2月16日）

❖ 奥様誕生日

志澤 有紀子さん（2月14日）

木村 綾乃さん（2月18日）

❖ ニコニコ箱

梶持 悟委員

| | ニコニコ箱 | 累計 | 目標 |
|--------|--------|---------|-----------|
| 2月12日分 | 21,860 | 668,040 | 1,300,000 |

*ビジター

川田 隆志様（小田原中RC）…お世話になります。

*会員誕生日

村瀬 雅實さん…誕生日祝い有難うございます。2月16日で73才になります。これからも健康に注意し、今後も頑張ってください。

*奥様誕生日

志澤 昌彦さん…奥様の誕生日を祝って頂きありがとうございます。

*その他

城北RC有志…先週の卓話者「高野聡子様を囲む会」を有志の皆様で行いました。会費に余裕がありましたので。

清 康夫さん…2月9～10日、当社（株）フジミの社員旅行、江の島・鎌倉・三浦半島に行き、江の島に有る旅館に宿泊しました。近くにいてなかなか機会が無く、初めての経験を、楽しく社員とコミュニケーションがとれましたので、少々。

杉崎 勝成さん…1市4町の地域医療を支える目的である新小田原総合医療会館新築工事の起工式が多くの来賓を迎え、当社杉崎工務店と鹿島建設JVにより行われました。来年1月の竣工に向けて工事が始まりましたので、少々。

露木 清勝さん…永井さん、いつもお世話になっています。今日はおよろしくお願ひ致します。

辻村 彰秀・齋藤 永さん…2月9日から3月10日まで、松田早咲きさくらまつりが開催されています。まだ1～2輪しか咲いていませんが、辻村、齋藤の売店が現地に出店しますので、富士とさくらと美味しい物を体験しに来て下さい。

金山 慶昭さん…永井様、本日は宜しくお願ひ致します。



RAC
会員募集中

相応しい会員をご紹介ください！

■ ■ ■ 今後のメーキャップ情報 ■ ■ ■ -2013年2月-

- ▶ 20日(水) 小田原北 報徳会館 12:30
「会員卓話」
- ▶ 21日(木) 小田原中 報徳会館 12:30
「小林 悟様/相洋高等学校和太鼓部顧問」
- ▶ 22日(金) 湯河原 ニューウエルシティ湯河原 12:30
「クラブ・協議会」
足柄 おんりーゆー 12:30
「会員卓話/青春そして今」
- ▶ 25日(月) 小田原 ラスカ 18:00 M.U.受付なし
「夜間例会」
- ▶ 26日(火) 箱根 湯本富士屋ホテル 18:00
「夜間例会/中川 康一会員」
- ▶ 27日(水) 小田原北 報徳会館 12:30
「会員卓話」

小田原城北ローターアクトクラブ

足柄屋STUDIO(ダイヤ街) 19:30
小田原市栄町2-9-10ナイス小田原ビル3F
☎0465-23-2331
「音楽フェス」

- ▶ 28日(木) 小田原中 報徳会館 17:30
「クラブ・フォーラム/新会員セミナー報告」

-2013年3月-

- ▶ 1日(金) 湯河原 ニューウエルシティ湯河原 12:30
「卓話:平間 章弘会員」
足柄 おんりーゆー 12:30
「会員卓話/青春そして今」
- ▶ 4日(月) 小田原 報徳会館 12:30
「鈴木丈織様 (US心理学博士・US医学博士
株式会社ビジネスラポール代表取締役)」
- ▶ 5日(火) 箱根 宮ノ下富士屋ホテル 12:30
「卓話:勝俣 恵会員」
- ▶ 6日(水) 小田原北 報徳会館 12:30
「会員卓話」
- ▶ 7日(木) 小田原中 報徳会館 12:30
「卓話:田中 康之様(㈱はとバス営業企画部長)/
はとバスから見た東京観光」
- ▶ 8日(金) 湯河原 ニューウエルシティ湯河原 12:30
「卓話:神谷 一博会員」
足柄 おんりーゆー 12:30
「会員卓話/青春そして今」

【小田原城北ローター・クラブ】
事務局：〒250-0211 小田原市鬼柳172-9
電 話：0465-37-1222 FAX：0465-37-7377
URL：http://www.odawarajhrc.jp
Mail：info@odawarajhrc.jp
例会場：小田原卸センター内会議室
創 立：1976年4月2日 承認：1976年5月8日
例 会：毎週火曜日 12:30～13:30
クラブ会報委員会
監 修：久保田 知子
編集長：須賀 俊和
コピーライター：大川 誠
デザイン：小林 和彦
フィールド：須藤 公司・小楠 雅昭

会員数：49名



国際ロータリー第2780地区

小田原城北ロータリー・クラブ

R.I. DISTRICT No.2780
ODAWARA JOHOKU R.C.
2012-2013
WEEKLY BULLETIN



【R. I. 会長】
田中 作次
【R.I. 2780地区ガバナー】
菅原 光志
【第9グループガバナー補佐】
鈴木 悌介



【会 長】小嶋 章司
【副会長】中野 明
【幹 事】久保田 知子
【副幹事】大川 久弥
【会場監督】清 康夫

奉仕を通じて平和を PEACE THROUGH SERVICE

本日の例会：通常例会（第1786回）

会場：小田原卸センター内会議室

日時：2013年2月19日 12:30～13:30

司会：大川 久弥 副幹事

| | |
|-------|--|
| 12:30 | 開会点鐘：小嶋 章司 会長 ローターソング斉唱「手に手つないで」 スピーカーおよびビジターの紹介 慶事祝福 会長挨拶 幹事報告／出席報告／委員会報告 同好会報告／ニコニコ箱 |
| 13:00 | 担当：指導者育成委員会 卓話：石崎 孝委員長 「私の考えるロータリー」 |
| 13:30 | 閉会点鐘：小嶋 章司 会長 |

❖ 米山功労者感謝状及び表彰品

| 累計額 | 表彰名 | 表彰品 |
|-----------|-------------------------------------|---------------------------|
| 3万円 | 準米山功労者 | なし |
| 10万円 | 第1回米山功労者 | 感謝状（青色） |
| 20～50万円 | 第2回～第9回毎に | 感謝状（銅色） |
| 60～90万円 | 米山功労者マルチプル | 感謝状（銀色） |
| 100万～390万 | 第10回～第39回 米山功労者メジャードナー | 感謝状（金色）+100万円毎にピンバッチ |
| | 第10回：ルビー（赤）第20回：エメラルド（緑）第30回：ダイヤモンド | |
| 400万～ | 第40回～ 米山功労者メジャードナー | 感謝状（金色）+ 100万円毎にクリスタル盾 |

今見つめ直そう不易なるものと流行

【今後の例会・卓話スケジュール】

2月26日 通常例会 12:30

担当：プログラム委員会

卓話：菊地 義雄会員・中村 維孝会員

「私の10代」

3月5日 通常例会 12:30

担当：国際交流プロジェクト

卓話：未定

「未定」

3月12日 通常例会 12:30

担当：会員増強委員会

卓話：高橋 哲也会員・大川 裕会員

「新会員イニシエーションスピーチ」

3月19日 通常例会 12:30

担当：小嶋章司会長

卓話：秋山里奈様

明治大学 法学研究科博士前期課程

2年 伊勢原市出身

「ロンドンパラリンピック競泳女子
100m背泳ぎ金メダリスト」



例会報告：2013年2月12日（曇り）第1785回年通常例会

会場：小田原卸センター内会議室
時間：12:30～13:30

❖ 会長挨拶

「社会奉仕について」



小嶋 章司 会長

外部から見るとロータリーは「奉仕・奉仕」と唱え、しかもあんなにも大物会員ぞろいの団体としてはケチだという声をききました。

反論することはしませんでした。ある奉仕団体は寄付そのものを目的にしているから多額の寄付ができるでしょう。ロータリークラブの奉仕は会員の訓練であり、寄贈物は実習作品でいわゆるサン

ブルにすぎないのです。

ロータリーが社会に見てもらいたいのは、寄付物件や金額の多さでなく、会員がいかにか奉仕生活をし、奉仕という点で社会の指導者になっているかどうかということです。

また、従来国際ロータリーは「ロータリーの奉仕の目標はその年度内で完了するものを選び」としてきました。それは、あくまでも訓練という立場に立っての話です。

社会は年々変わっていきます。常に継続事業をしていたのでは、役員の方々の交代の意味もなくなり、マンネリ化の原因になります。つまりロータリーは、団体で大きな奉仕事業をするのが目的でなく、個人ロータリアンを奉仕という点で訓練しようとしていることがわかると思います。

しかし、ロータリーが大きな発展を遂げ、ロータリーの奉仕に対する世の期待が高まるにつれ、ロータリーの奉仕活動にも継続性が要求されるようになり1999年～2000年のカルロ・ラビッツアRI会長は、彼のテーマの中に「継続性」を入れ、プログラムが継続性を持つことの重要性を訴えました。どちらにしても、私たちロータリアンは、たとえば交通標識を寄贈しようとしたら、まず手分けして交通モニターを行い交通問題を考え、そしてその標識は市民の交通徳を高めるための指導性を持つものにしたいたいです。

❖ 幹事報告



久保田 知子 幹事

1)2013～14年度地区役員・委員会委員が決まりましたのでご報告させていただきます。当クラブから会員増強・維持委員会に小嶋会長、ローターアクト委員会に久保田の2名が出向いたします。

❖ 出席報告

村瀬 雅實委員

| 出席報告 | 会員数 | 出席 | M.U | 出席率 |
|-------|--------|----|-----|--------|
| 2月12日 | 49(47) | 41 | 0 | 85.37% |
| 2月5日 | 49(49) | 37 | 0 | 75.51% |
| 1月29日 | 49(46) | 39 | 1 | 86.96% |

【欠席者】 6名

須賀 俊和、上田 博和、木村 啓滋、石橋 徹、一寸木 信雄
高橋 哲也

【今回MU】 0名

【前回MU】 増加なし

【前々回MU】 増加なし

❖ 委員会報告

国際交流プロジェクト・・・本多 純二リーダー

私どものプロジェクトで報告書に記したように、モンゴルのウランバトルのロータリークラブへ訪問する件についてのアンケートを本日ボックスに入れさせていただきました。

記名式ですが気楽にお答えください。その結果によっては、この行事を行うか、行わないかの参考にさせていただきたいので宜しくお願いします。

会員増強委員会・・・石内 正彦委員長

先週、高橋哲也さんと大川裕さんの新会員歓迎会のお知らせをボックスに入れさせていただきました。本日までに26名の参加を頂いております。19日の火曜日、場所はふらんす亭、18時からでございます。御都合のつく方、ご参加をお願いしたいと思いますのでよろしくお願致します。

❖ Table Flower

- アネモネ
- サクラコマチ
- スイトピー
- ドラセナ



アネモネの花言葉は、「はかない希望」「期待」「可能性」
サクラコマチの花言葉は、「淡い期待」
スイトピーの花言葉は、「ほのかな喜び」「門出」「優しい想い出」
ドラセナの花言葉は、「幸福」

❖ 卓話

「報徳の森プロジェクトについて」



小田原市役所経済部 管理監
永井 壯茂様

私は一昨年の4月から小田原に住んでいます。もともと農林水産省の林野庁から出向という立場で小田原市役所の経済部の方に参りました。その経緯を簡単に申しますと、小田原の加藤市長が、小田原にはわずかではあるが森がある、その森には豊かな森が広がっています。しかし森林林業の立場で言

うとかなり低迷してきているということで、ぜひそれを再生し、保全し、また活力を与えて欲しいと要請が林野庁の方にありました。そこでたまたま私に白羽の矢がたち、小田原市役所に移る事となりました。私は子供が3人いるのですが、小田原に来るとなったら家族で来たいと思っていました。小田原は凄く良い所だなと思っていて、単純な事と言えば、久野のみかん狩りをしてすぐ海が見える。それだけで小田原は凄いなと思いました。森があり、里があり、海がある。その素晴らしさというのは全国でも類まれなる地域であるし、世界に誇れる地域だと私は思います。

「報徳の森プロジェクト」ということで、まさに二宮金次郎にあやかって付けた名前です。木材の利用の推進というのは、間伐等による森林整備を推進したり、またはそこに木を留める事によって地球温暖化の防止に貢献できるということで、環境とか、森林の保全に資するという事が言えるのではないかと考えております。一方で木材利用の元々の原点である森ということに目を転じますと、小田原の状況は、人工林が多いのですが蔓が結構入ってきちゃったりとか、凄く込み合ってもやしのようになってしまったりとか、管理が行き届いていないので森林が青林していない森がいろんな所であります。木材利用を進めるといっても間伐などの森林整備を進めて行く事が一番重要になっていくのかなと思います。

まず上部の森を整備すること、そして切った木を製材・加工しそして使うという3つのサイクルがうまく回って行く事が、森の再生と地域の活性化ということにつながっていくのではないかと思います。3.11以来、森の再生というコンセプトから、うまく被災地への支援が出来ないかなと考え始めました。そして小田原の木を加工してそれを被災地に持っていき、木造の直売所をつくったり、木工技術をお子たちに教えたり、木造のコミュニティー施設を造るといったような、お互いがWINWINな関係になれるようなものを考えました。

プロジェクトのスタートとして被災地のどこの地域にしようかと考えた時に、やはり二宮金次郎のつながりで相馬に絞って行こうという事で、相馬市と報徳の森プロジェクトの活動をさせて頂いております。

そして被災地のニーズの把握をしようということで市長とお話をしたり、向こうのNPO法人相馬原釜朝市クラブという被災者自身が被災者を支援しようというNPO法人と相談しながら進めてきました。これまで報徳の森プロジェクトとして何をやってきたかということ、実際に朝市に参加してかまぼこだとか柑橘であるとか、イベントの支援をさせて頂きました。

23年の12月には向こうから賑わいが欲しいというニーズがあったので8メートル位のクリスマスツリーを送りました。また相馬に飯館村の方が非難されており、そこに飯館村の方々が造られた

農園小屋があるのですが、そこが凄く寒いということで小田原から杉の板77枚を小屋に持って行き、地元の大工さんを集めて内装をつくりました。そこが飯館村の方々のコミュニティーの場になっておりますので「一服小屋」と呼ばれております。

送ったクリスマスツリーは道の駅相馬という所に植えました。次の報徳の森プロジェクトの取組みとしまして、相馬にある仮設店舗を直売所にしようということになりました。単純に木をお渡しするのではなく、木をツールにして何か人と人とのつながりが生まれなにかということで直売所ということにたどり着きました。そこで相馬の復興ブランド食品をふるまったり、全国からの絆で生まれた食品を提供するとかいうようなことが出来ないかということで支援をさせていただきました。1年後の3月11日にオープンさせようということで、小田原の方から木を切って8トントラックで材木を運び、かなりの突貫工事でしたが何とか3月11日に「相馬報徳庵」という名でオープンしました。

こういったコミュニティー施設が出来て何が良かったかということ、被災地の方々が集う場所になったということ、そこで朝市も行われるようになり毎週物を配ったり、イベントを開催したりと被災地の方々が楽しみを



持ってきてくれる場所になっています。また支援者同士の繋がりの場所にもなっております。これから被災地で求められているところは何かということ、コミュニティー施設みたいなものもそうですし、外で遊ぶことが中々出来ないで屋内で遊ぶ遊具があっても良いのかなというふうに思っております。あとは産業復興ということで加工施設がもっとあっても良いのかなということ、これから復興を続けていくためには観光産業というのをもう少し力を入れていかなければならないのかなと思います。

報徳の森プロジェクトというのは森から海につながるというコンセプトでプロジェクトを起ち上げました。小田原ならではの総合力で被災地を支援し、本業である小田原の森を再生し、里山を再生し、海を豊かにしようという思いが込められております。今まで申し上げたような繋がりが何で出来ているかということ、200年前の二宮金次郎の繋がりがあって私たちが活動できる絆があるので、私が考えているのは100年先、200年先の未来の子供たちの為に今何が出来るのかを考えていかなければならないのかと考えています。

